

舟通し水路が完成しました

平成23年9月、長井市小出地区に舟通し水路が完成。これまで諏訪堰があるため不可能だったカヌーやボートでの通行が出来るようになりました。

河川と市街地の融合を図る「かわまちづくり計画」の一環として整備されたもので、かつて米沢藩の舟運基地として栄えた場所にあります。

当時の繁栄を紹介した歴史案内看板も設置されました。

長井市で開催された「日本フットパスシンポジウム in ながい」では、全国から訪れた参加者にお披露目されました。



舟通し水路及び歴史案内看板完成を祝う会

平成23年9月30日、舟通し水路及び歴史案内看板完成を祝う会が行われました。

(主催：長井市かわまちづくり推進協議会／

共催：「日本フットパスシンポジウム in ながい」実行委員会、
長井市、国土交通省山形河川国道事務所)



歴史案内看板(宮の船着場跡) 除幕式
最上川舟運の最終船場として栄えた
長井の歴史を知ることができます。



カヌー下りデモンストレーション
及び体験試乗

日本フットパスシンポジウム in ながい

平成23年10月1日・2日、長井市タスパークホテルを主会場として日本フットパスシンポジウム in ながい が開催されました。
(主催：最上川流域観光交流推進協議会、日本フットパスシンポジウム/
共催：日本フットパス協会、長井市、国土交通省山形河川国道事務所)
長井市での開催は平成18年度以来2度目となります。

1 日目

シンポジウム

かわまちづくり、フットパスについての展示会や講演、パネルディスカッションなどが行われました。



フットパス展示会

「最上川かわまちづくりとフットパスパネル展」



パネルディスカッション

テーマは「フットパスによる地域活性化」。
約300人が来場しました。

2 日目

エクスカーション

舟運の歴史文化、最上川フットパス、しらたか・あさひフットパスの3つのコースに別れ、約100名の参加者が長井市とその近郊のフットパス歩きました。



最上川フットパス

河井山狭窄部拡張工事の際に土砂を運んだ
トロッコ道の跡を再現。
フットパスとして使用されています。



最上川ビューポイント

最上川と置賜白川の合流点。
かつてこの地点より上流は松川と呼ばれていたため
地元では最上川発祥の地とされています。